

さきがける 科学人

Vol.
36

ライフサイエンスデータベース統合推進事業

好きな研究をしながら 生命科学の情報環境づくりも



ナイチンゲールの絵に惹かれて

この道に進んだきっかけは、小学生のときに読んだ伝記まんがの中のナイチンゲールがとてもかわかったこと。それ以来、看護師は憧れの職業でした。

看護学科に進んで、今もお世話になっている恩師との出会いがありました。たまたま人類遺伝学の講義に来ていた東京大学の徳永勝士先生です。もともと生物学が好きだったこともあり、その講義で人類遺伝学に興味を持って、徳永先生のもとでの研究に入りました。

私の仕事は、特定の病気にかかわる遺伝要因を探ること。実験を繰り返してデータを集め、それを解析していくのです。最初に対象にしたのはナルコレプシーという睡眠障害でした。過眠症の1つで、十分に睡眠をとっていても、強烈な眠気や脱力発作に襲われ、治療なしでは日常生活に支障をきたす病気です。

家族で念願の海外へ

助成を受けて、睡眠障害の分野で世界的に有名な研究者のいるアメリカのスタンフォード大学に行きました。すでに結婚していて、1歳の子どもとともに、家族そろっての渡米です。こんな芸当ができたのは、周囲の人たちの温かい協力があったからこそ。特に、会

社勤めだった夫が長期の育児休暇を取得して来てくれました。

アメリカは、子連れへの周囲の目が優しく、職場も18時頃には仕事をすっぱり片付けて帰る人が多かったので、働きながらの子育てはとても楽でした。ずっといたいぐらいでしたが、日本のデパ地下の繊細なスイーツが恋しくなって帰国しました。

日本では、女性が妊娠や出産、子育てをしながら働き続けるのは容易ではありません。優秀な人ほど仕事量が増え、周囲からの期待や責任がのしかかって、家庭との両立が困難になりがちです。託児施設のある大学などが増えているのはありがたいことですが、女性の社会進出を促すには、上司や周囲からの女性への配慮や支援だけでなく、男性が家事や育児に参加することへの理解ももっと必要だと思います。

研究者の視点を忘れずに

私が今いるのは、JSTバイオサイエンスデータベースセンター (NBDC) です。日本の生命科学データベースの統合を目指す組織で、2013年10月からNBDCヒトデータベースの運用を始めました。日本はもとより、世界中の研究者が提供するヒト由来のゲノム (全遺伝情報) やたんぱく質などのデータを共有して、大規

かわしま・みなえ

1976年、千葉県船橋市生まれ。99年、浜松医科大学看護学科卒業後、東京大学大学院医学系研究科に進学。2004年、同博士課程修了 (保健学)。同年、同睡眠障害解析学講座教員 (寄附講座)。08年、スタンフォード大学ポスドク。11年、東京大学人類遺伝学教室特任助教を経て現職。2児の母。趣味は茶道、バレーボール、デパ地下散策、旅行、人間観察など。

●川嶋さんの詳しい業務内容を知りたい方はこちらへ
<http://biosciencedbc.jp/>

模で横断的な研究による新たな知見につなげることが目的です。

以前は自分の研究成果としてデータを生み出すことが仕事でした。今度はヒトデータベースについてもっと広く知ってもらい、蓄積されたデータをいかに活用してもらうかを考えることです。研究者は論文を出した後のデータの保存や活用まではなかなか手が回りません。NBDCの取り組みに興味を持ち、ほかの研究者がやらないならやってみようと思ったのがきっかけでした。これまでさまざまなデータベースを利用した経験があるので、この仕事の意義を深く感じています。

実は遺伝学の研究も客員研究員として継続中で、二足のわらじをはいています。東大の研究室の近くに住んでいるので、家族そろっての夕食の後の私の貴重な研究の時間です。帰宅は遅くなりますが、子どもたちの寝顔に元気をもらいます。共同研究者の理解があってこそですが、好きな研究をできるところまでやってみよう——これが私のスタイルです。

JST
バイオサイエンス
データベースセンター
研究員

川嶋 実苗



TEXT: 寺西憲二 / PHOTO: 浅賀俊一

鹿児島県の屋久島で豊かな自然とふれあう。家族そろって冒険旅行のような体験をするのが何よりの楽しみだ。



JST news
未来をひらく 科学技術
2015/April

発行日/平成 27 年 4 月 1 日
編集発行/国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) 総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JST news/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号バックナンバー